

令和7年7月24日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題 第49回JAしまね斐川野菜部会定期総会開かれる
—販売額は大台の1億5000万円を突破！—

(ダイジェスト)

令和7年5月20日に露地野菜を生産する生産者組織「JAしまね斐川野菜部会（以下、野菜部会）」の第49回定期総会が開催されました。出荷量は減少傾向ですが、玉ねぎを中心とした昨年度の販売額は1億5千万円を突破しました。今後も更なる生産量の拡大を目指していきます。

野菜部会は、玉ねぎ、キャベツ、エダマメを栽培する生産者で組織され生産の拡大と複合経営の推進を図り、産地形成と農業経営の安定を目的に活動しています。

総会では、昨年度の出荷量と販売額が報告されました。主力の玉ねぎの出荷量は、定植時期に長雨が続き土壌水分の高い中での作業になったこと、3月の除草剤散布時期も長雨が続いたことで雑草が繁茂したことにより、収量は減少したものの全国的な品不足による単価高により販売額が18年ぶりに1億2千万円を突破しました。

江角部会長から「気温上昇や物価高騰など生産者がいかに頑張っても解決できない課題もあるが、一層奮起してほしい。」との挨拶がありました。

出雲農業部では、野菜部会、JAしまね斐川地区本部と「タマネギ機械化一貫体系マニュアル（斐川版）」を新たに作成し、総会で提供しました。今後、このマニュアルを随時アップデートし、安定した収量の確保や効率的な機械作業の推進を支援していきます。



総会の様子



マニュアル（表紙）